

電子複写不可

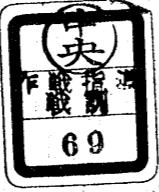
昭和三十年五月三日  
元陸軍中將  
玉田美即氏  
(25期)  
リ受贈

沖繩作戦の教訓 (その他の戦訓綴)

防衛研修所戦訓室



2800C-1  
E. 1



6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7

沖繩作戰教訓

玉田中將

元陸軍中將  
玉田善一郎氏遺稿

防衛研究所戦史室

戦史室  
38. 5. 22  
351

た
1

C 2800-1

資料

生

兵

考

復

附

ノ

下

午

内

ノ

記

戰訓速報第一八七號

沖繩作戰、教訓

昭和二十六年六月二十日  
大本營陸軍部

目次

緒言

第一 敵軍、戦法

第二 教訓

其一 統帥

其二 築城

其三 野攻及歩兵火力、發揚

其四 對戰車

其五 對迫撃砲

其六 砲兵

其七 第一線防禦戰鬥、成敗

其八 通信

其九 第一線戦力補充要領

其十 後方衛生

緒言

島嶼作戦ニ於テハ戰訓ハ心スモ國土決戦ニ適用シ難キモノナリト雖モ無形  
的要素ノ地位、統帥指揮執中戦法、戦技ニ関シテハ貴重ナル教訓ヲ垂  
レマリ 特ニ本書ハ國土決戦區迫セシ現況ニ鑑ミ善謀奮戦赫々ナル  
武勲ヲ残シタル冲繩守備軍ノ忘憚無キ又省教訓ヲ重視シテ整理  
セルヲ以テ吾人ノ真劍ナル作戦準備資料ナリト思料ス

註

既ニ編纂配布セシ南西諸島作戦ニ訓持報(第一期作戦)ト対  
照研究シ切望ス





三米軍砲兵

師團砲兵

主力ハ中迫砲ニシテ口徑十五粒乃至八粒砲數約百門 外二輪動  
七粒乃至十粒榴彈砲一乃至二大隊

軍國砲兵

十打用臺 十五打用臺及榴彈砲ニシテ其ノ兵力各約一大隊 外  
二十打榴彈砲アルカ如ク明確ナラズ

迫砲

敵砲兵主力ハ迫砲持ニ中迫砲ニシテ直協砲兵トテ使用ス  
之機動、急索引車及自動貨車使用  
射程約三乃至四十、精度良好 公算誤差二十米餘  
速度甚大

多數彈、集中ニ依リ綜合威力大  
地域射撃、集中射ヲ及復ス

遠戰砲兵

遠戰砲兵トシテ、昔ハ見ルベキモノナシ  
艦砲射撃及海岸之ヲ代行ス

陣地ハ輕易ニシテ一節ニ遮蔽防禦良好  
但シ本島、地形ニ依リ、火光ヲ認ム得

砲兵用法

射撃、晝夜連続ニ實施部隊及人員ノ交替服務セメ下ルガ  
也

爆撃、艦砲射撃 地上射撃ノ三者ハ、地域及陣内ノ三密ニ連  
繫シ保テ射撃セラル時向及地域無キ如クナリ

射撃法

飛行機觀測シ主トシ戰車ニ依リ觀測、音源標定、電波標定ヲ從  
トシ陸海空統一標使用

試射

遠距離目標ニ對シテハ當初飛行機觀測ニ依リ逐次修正シ近距離  
目標ニ對シテハ最初ヲ効力射ヲ實施ス

使用彈藥ニ制限ナキヲ以テ同ノ重スルニ從ヒ不確實トナル

3. 効力射

◎破壊射要ハ彈量ニ制限ナキヲ以テ目的達成迄是施設後補修妨害ヲ及復ス

◎擾乱射要ハ地域射要ニ移動ニ依リ一途夜連續ス

◎交通遮断ハ隘路、道路、交叉点ヲ標定シ飛行機觀測ニ依リ確度ハ諸元ヲ得タル後晝夜連續スモ五乃至十分間隔ヲ以テ擾乱及交通遮断射要ハ一定ノ型ニ隔リテ、其ノ地域ト間隔ノ看破必要ナリ

◎夜間、交通妨害ハ電波標定ニ依リ追隨射ヲ實施スルモ大ナル效果ナシ

◎重要砲、歩兵直協ノ要領

其觀測所ハ大廳ニ第一線ニ進出ス

歩砲連絡ハ小型短波無線電話ニ依リ生文ヲ使用シ極々良

也

戰車、砲塔射要ト共ニ敵歩兵ヲ掩護シ我が歩兵ニ最モ迷惑ヲ與フ

① 彈藥信管

1. 榴彈解炸ニテハ火榴彈及雷散彈ニ適用ス

申迫薬施ハ盛ニ発煙彈ヲ使用ス

2. 特殊彈トシテ發煙彈、照明彈、誘火彈、誘爆彈ヲ使用ス

發煙彈ハ飛行機ニ對スル誘著標示並ニ他兵種ニ對スル目標

指示

戰車ニ對シテは後退掩護等ニ使用ス

3. 照明彈ハ射線標示、射込防止、我が機動妨害等、爲終夜

全線ニ互リ使用ス



## 第二教訓

### 其一 統帥

一 指揮官 幕僚、敵斗意志昂揚ニ就テ  
 軍、強弱ハ実ニ指揮官、精否ニ因スル下甚大ナリ  
 状況、不明 傳修奇烈ナルハ戰場、常態ニシテ強烈不撓、意  
 志力、攻襲精神等無形の要素ハ斯ク、如キ戰場ニ於テ指揮  
 官ニ最モ要キナル所ニシテ成敗、基又茲ニ存リ

五月四日攻勢中止ノ原因、項參照

### 第一線防禦戰鬥、成敗

二 司令部内、團結ト戰術思想、一致ニ就テ  
 司令部内ニ於ケル各幕僚及上下級司令部相互、一貫ナル戰術  
 思想トハト、一致ハ戰捷、重大要素ナリ。而シテ之ガ一致ハ急ニ  
 底ニテ求メ得ザル、ミテラス平素ニ於テ思想ノ不一致ハ困難ナル  
 戰況下益、助長増大ス。故ニ司令部内ニ於ケル精神的結合ト上  
 下級司令部相互、意志、流通ハ作戰準備向ヨリ待ニ之ヲ重

視スルヲ要ス

### 三) 防者ノ心理ト決斷力

井上陸作戰、本質上準備軍ハ敵上陸ニ受動、地位ニ在リ  
 然レドモ一度作戰ヲ開始セバ防者、受動心理ヲ克服シ斷乎主  
 動ノ地位ニ立タザルベカラズ



4月敵、浮動セルニ乘テ攻勢ニ転  
 スベク内示セテ秦川附近上陸  
 困難厚トリ中止ス(事實ハ陽動)

4月攻勢ニ転スベクワタリ四〇〇運命令ヲ  
 下達セルモ一五、八、河添井ニシテ、  
 船団停止シ上陸態勢ヲ示セル爲  
 同日攻勢中止ス(事實ハ陽動)



夕

四 高等司令部、戰場心理ト心構ハ

砲煙彈雨、戰場ニ於テ第一線ト高等司令部トハ概相甚シク莫  
リ第一線ハ彈雨ニ慣レテ心的動向ハ鈍感ニシテ易キモ高等司令部ハ  
第一線ニ比スレバ常時彈雨ニ曝サレハルヲ以テ動カスレバ軀砲射裏砲  
迫爆裏、急襲、悲慘ナル戰況等ニ對シ神經過敏トナリ心理的  
弱點ヲ暴露シ易シ

故ニ司令部内、雰囲気ニ如何ニ場合ニテ雄々シク正常トシムル如  
ク努ルコト肝要ナリ

五 統帥ノ權威

狀況ニ變更ヲ起スル統帥固ヨリ必要ナル戰鬥指導方針又ハ命令、  
變更、訂正回ヲ重スルニ從ヒ統帥ノ權威ヲ失墜ス

本件ハ作戰要務令、明示セル所ニテ吾人又克ク承知セル原則ナル  
モ戰場、真相ハ動カスレバ此、弊ニ陷リ易キ戰訓多キニ鑑ミ指  
揮官、幕僚、修練ヲ要スル所ナリ

六 作戰構想ニ基ク一貫セル作戰準備ニ就テ

任務ノ基礎トシ作戰構想ヲ定メ之ニ合致スル如ク諸計畫ヲ準備ス  
ルヲ要ス

著靜的作戰準備(配備計畫、築城計畫)ヲ重視シ動的作戰準  
備ヲ輕視シ易キ傾向アリ以テ戰鬥指導計畫等動的準備、檢討  
訓練ニ遺憾ヲキコ期スルヲ要ス

一 五月四日攻勢中止、原因

攻勢前進セル第一線ト後トニ對スル敵、遮斷射裏ハ熾烈ニシ極メテ連  
絡杜絶シ師団司令部、軍司令部ニ於テハ第一線、狀況不明トナレリ、如  
クニ敵、空海陸ヨリスル集中射裏ニ依リ戰死傷續出シタルヲ以テ各  
師団、軍直部隊ハ相次テ戰力減耗狀況ヲ軍ニ報告セリ

軍司令部ニ於テハ各方面ヨリ損害統制ノ報告ニ接シ「成ルベク長期ニ  
至リ戰畧持久スベキ任務」ニ鑑ミ攻勢ヲ斷念スルヲ得策トスベキ意見  
出テ遂ニ中止ヲ命ゼラルニ至ルモノ、如シ

然レモ、畢竟、前夜、並ニ陸成功ノ敵、混乱甚クシク而シテ戰車部隊ハ  
比較的損害少ク、平地附近、攻勢準備線ニ就キ、時機ニテ此、盛大

勢ヲ續行シタル場合ニ於テ成功セヨトハ遠ニ断定シ難シト雖モ第一線、攻勢頓挫ニテラザルニ中止ハ正ニ至リタルハ誠ニ惜シムベキナリ  
攻勢ノ定情ハ約ニテ大隊ガ輕戰車ヲ伴ヒ発煙下透過的ニ突進セルニ過ギズ此際砲兵ハ若シテ隨伴ニテラズ第一線戦力ヲ維持培養スルニ至ラズニテ攻勢中止トナレリ

八大隊長ハ第一線戦力ノ核心ナリ

戰訓ニ徹スル大隊長ハ第一線戦力ノ核心ナリ 戰略單位タル兵團長 軍旗ヲ戴ク聯隊長等因テ團結中心 戦力ノ根源ナルモ 対迫 対戰車 洞窟陣地 戦車等近代戦斗ノ趨勢ハ持

ニ戰術單位タル大隊長ノ勇猛ト卓越セル指揮トヲ專ホシテリ  
九戰果損害報告ト審査

戰果損害ハ過大ニ報告ニ易キヲ以テ平素ヨリ之ガ至當ナル報告ヲ爲ス如ク教育ヲ徹底スル要ナルト共ニ諸情報ノ蒐集、確認半段ヲ講グル等審査、確定ノ期スルヲ要ス  
註 五月四日攻勢中止ノ原因、頁参照

其ノ二 筑木 城

一 作戦準備同ニ於テハ各兵團部隊ハ専ラ自隊正面、築城ニ専念スルヲ以テ軍、作戦指導要領ヲ明示シテ強カニ注意セル地域方面、築城實施ヲ命ズルヲ要ス又兵團相互ニ陣地編成ノ通報ニ合ハシムルヲ要ス  
沖繩ニ於テハ島尻地区、功カ急遽セル正面ニ転用セルタルモ該兵團ハ他兵團ノ構築セル陣地ニ就クニ爲少キナル混雜ヲ來セルモノ如シ

二 司令部 本部位置ハ多數存シテ要ス

通信機関、設置場所ト有線通信ヲ收容ニ最モ配慮ヲ要ス  
洞窟陣地、最モ相トスル所ハ砲爆撃ニ対シ戦力ヲ過存スルニテリ  
最モ弱點ハ脆弱ナルニテリ 洞窟陣地自体ハ一層戦斗的ニ編成

設備スル共ニ之ニ附隨スル地表面陣地ヲ構築スルコト極メテ要ス  
② 掩護高十数米ニ及ブモノハ且洋艦以上ノ主砲及爆撃ニ対シテ抗堪ス 但シ入口附近ハ破壊受ケルコト多シ

③ 第一線洞窟陣地  
。入口多數必要(戦斗的)

○哨煙陣地ハ、連接ヲ良好ニス（迅速ニ進出）

○洞窟火点射要ニ開始セバ向テク敵ノ報復射要ニ受ケニ（三十発ノ連續射要ニ依リ我ヲ火点ハ通常破壊セル）

○敵ノ迫要砲射要中止時敵步兵ハ通常再前五十六十米前方ニ存此ノ際ハ連ヤツニ全員哨煙陣地ニ依リ戦スニ及ビ得ニシテ之ガ躊躇セバ全員洞窟内ニ馬乗り攻要ヲセルコトヲ通常トス

④洞窟健兵対策

イ 砲爆要ニ対シ萎縮セザル如ク常時敢斗精神ヲ昂揚スル事  
ロ 精神過勞ニ陥ルヲ以テ精神教育ト戦果通報ニ依リ志氣昂揚ス  
ハ 勤メ割、適切 起居嚴正 勉メテ  
ニ 洞窟内作業 体操、励行ニ依リ  
ホ 洞窟外ニ二、三回夜間出デテ休  
ハ内ニ廁ヲ設ケ保者ニセカム

⑤対瓦斯及砲爆ニ依ル一酸化炭素、一度被襲セシメテ自滅陣地ニ自

一 洞窟内困難トシ敵ハ未ダ瓦斯ヲ陣

命中セバ大口徑砲彈ノ爆発ニ依ル一酸化炭素ハ

附近数名ノ者ハ忽チ死亡ス瓦斯ハ（凡向ニ依ルモ）

四陣地ハ戰鬥向ト離テ堪ハズ補修シ且新明ナルヲ要ス

五 警備陣地ハ重要性

陣地ノ命数短小ナルヲ以テ多数ノ予備陣地ヲ必要トス又之ニ依リ

射要ニ更迭シ得

六 偽陣地 欺砲煙ハ極テ有効ニテ敵ノ砲砲、銃爆要ヲニ

牽制ス

七 哨煙陣地ハ敵ノ榴彈 榴彈曳火射要ニ依リ損傷少ナラズ依

テ哨煙ヲ構築スハ左目、如スルヲ有利トシ間隔ハ十五—二十米

ヲ可トシ階玉脚ヲ除去シ小銃的ニ急襲スルヲ最モ可トスルコトヲ





其、三 推進攻要及歩兵火力、発揚

一 敵、斬込対策

比島、ハッパ、ウシ等、斬込ニ忍レル敵ハ徹底的対策ヲ講

ビツツアリ

即チ

ノ候敵機、濃厚ナル配置及之ニ伴フ火力配置

又偽幕舎等、配置

ヲ晝夜同ク同ハサル砲臺

々照明彈、徹底的使用

二 推進攻要

ノ斬込班ハ一目標ヲ発見セバ携行兵器全轉テ消盡スル癖アリ、次

ノ好目標発見時ハ武器ヲキチ死トナシ

之斬込班、編成裝備

イ、三―五名、組ニ最モ可トス

ロ、各人ハ槍(小銃)並テ不便)

牛欄彈

各組 爆雷

ニ―三 一―二 夜間推進斬込ノ侵入路ハ崖底敵ノ警戒ニシテ道路 校紡 谷地

等ヲ避ケルヲ要ス

山腹ヲ経テ侵入シ成功セルトナリ

ノ斬込時機

降雨時、斬込ミハ大ノ成果ヲ收ム

① 敵利断トナリテ警戒緩ム

② 幕舎其他ニ兵員集結ナリ

③ 火砲、戰車等、無警戒ナリ

敵、晝夜同ク配備交替ニ戰場近ク、目標ニ斬込ミシ實施スル有

効ナリ

三 火力発揚

ノ不断ニ敵情監視ヲ嚴シク砲爆要ニ居スルコトヲ自動火器ヲ継續

ニ活用シ全智全能ヲ備テテ敵人員ノ殺傷ニ迅速スルヲ要ス